

若手難民研究者奨励賞成果論文・報告

## 若手難民研究者奨励賞とは

近年、日本における難民政策や制度は、第三国定住受け入れをはじめとしていくつかの変化を遂げているが、一方で日本における難民に関する研究者の広がりはいまだ発展途上にある。特に、恒常的な難民専門研究機関がほとんどないといった国内の研究環境の制限もあり、難民研究に取り組む、あるいは取り組もうとする意欲的な若手研究者（の卵）が続々出てきつつあるものの、研究の継続に困難や不安を抱えている人も多いと危惧している。

このような状況をかんがみ、難民研究フォーラムはこれまでも大学院生・若手研究者を中心とした自主勉強会の開催支援などを行ってきたが、2013年より、真如苑・真如育英会の資金助成を受け（2014年度は真如苑・真如育英会主催、難民研究フォーラム共催）、難民研究（難民・無国籍問題および強制移住等の研究）を志す若手研究者による、多様な分野からの独創的かつ先駆的な研究・調査を支援する「若手難民研究者奨励賞」を実施する運びになった。本奨励賞は、若手研究者の有望な難民研究を奨励し、また成果の発表機会を提供することで難民研究者の育成に寄与することを目的としている。

若手難民研究者奨励賞の詳細に関しては、難民研究フォーラムのホームページ (<http://www.refugeestudies.jp/>) を参照いただきたい。

## 第1回奨励賞の実施概要と受賞者一覧

2013年度の第1回奨励賞には、国内外から専門や所属が多様な10組の応募があり、審査委員会による厳正な審査を経て以下の4組が選出された。4組は国内外でのフィールド調査や文献調査等を経て、2014年4月末に成果論文を提出した。

本号には、第1回奨励賞受賞者4組の成果論文をもとにした論文・報告を収録している。

●須永修枝（東京大学大学院博士課程）

未承認国家ソマリランドとディアスポラ—越境的に展開されるダイナミズムを捉える試み

●瀬戸徐映里奈（京都大学大学院博士課程）・野上恵美（神戸大学大学院博士課程）

就労現場におけるベトナム難民の受け入れと町工場が果たした役割—兵庫姫路市高木・神戸市長田を事例に

●加藤雄大（東北大学大学院博士課程）

ノン・ルフルマン条項の構造と適用手法

●三浦純子（東京大学大学院博士課程・日本学術振興会特別研究員）

移動する人々と第三国定住—難民の行き先が日本になるとき